

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071101846		
法人名	有限会社 あい		
事業所名	あいの郷 長住		
所在地	〒811-1362 福岡県福岡市南区長住6丁目7番29号 TEL 092-512-2562		
自己評価作成日	令和元年11月20日	評価結果確定日	令和02年02月20日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaiokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	令和02年02月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の行事ごとに参加させて頂き、地域の方との交流を楽しめています。
毎月の草むしりや、花見、お月見会、敬老会とたくさんお招き頂き、地域の皆様に優しく接して頂き、入居者様も大変喜ばれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「あいの郷 長住」は、閑静な住宅街の中にある民家改造成型、定員6名のグループホームである。月1回の長住南公園の清掃活動や町内の花見、夏祭り、防災訓練等に積極的に参加し、地域の一員として交流を深めている。法人内保育園の園児が3ヶ月毎に来訪しての交流は、利用者の笑顔が弾ける瞬間である。協力医療機関への受診に同行し、看取りに入ると往診に切り替え、訪問看護、介護職との連携で、安心の医療体制が整っている。また、調理上手な職員が冷蔵庫の食材を見て献立を考えて作る美味しい食事を毎食提供し、職員もテーブルを囲んで一緒に食べている。また、年に1度、家族にも声をかけて利用者全員で出かける一泊旅行は家族にとっても大きな楽しみである。長住、西長住の20事業所で立ち上げた「ささえあい隊」の活動を通じて地域貢献に向けた活動も始まり、地域の福祉の拠点として地域からの信頼も高まっている、「あいの郷 長住」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	66 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しづつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない	68 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない
62 利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況	実践状況	
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有として毎年理念の研修をしており、人事考課にて理念の評価もしております。また毎月のミーティングでも利用者様の目標や評価について検討しております。	法人理念と介護目標を見やすい場所に掲示し、月1回のミーティング時に、理念に沿ったケアが行えているかを振り返っている。地域との関わりを大切にしながら、定員6名の家庭的な雰囲気の中、利用者一人ひとりのその人らしい暮らしの支援に努めている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月公園の草むしりとその後のお茶会にまでスタッフ・利用者様共お邪魔させて頂いております。他、花見・お月見会・敬老会やお祭りにも参加させて頂き、地域の方にも優しく接して頂いております。	昨年度より町内の組長を引き受けている。長住南公園の清掃活動(月1回)や、地域の花見、お月見会、敬老会、祭り等にも、地域住民の温かな支援を受け、積極的に参加している。3ヶ月毎に来訪する系列保育園児との交流は、利用者の大きな楽しみである。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一度長住・西長住の事業所が集り、地域の為に何が出来るのか会議をしている。、認知症センター講座のお手伝いに参加させて頂いております。	
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近くのグループホームの方も参加して頂いたり、半年に一度3社合同運営推進を行わせて頂き、地域の方のご意見や、他社で行われている対策を伺い、当社の方でも生かせる物を参考にさせて頂いております。	会議は自治会長、民生委員、社協、他事業所管理者、地域包括支援センター職員が参加して2ヶ月毎に開催し、ホームの近況や事故報告を行っている。年2回、3社合同運営推進会議を持ち回りで開催し、意見や情報交換を行い、サービスの向上に活かしている。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、地域包括センターさんが参加頂いているが、他の市町村との繋がりはあまりない。アプローチの方法もわからない。	運営推進会議に、地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状を伝え、アドバイスや情報提供を受け、協力関係を築いている。管理者は、行政担当窓口に、ホームの空き状況や事故等の報告を行い、疑問点や困難事例の相談を行う等、連携を図っている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修は毎年行い、身体拘束を行なう事無く介護出来ている。スタッフには身体的・精神的に負担は掛かっているだろうが、そんな雰囲気は見せずに介護に取り組んでくれている	運営推進会議の時に身体拘束廃止委員会を実施して、活発な意見交換を行っている。研修については、ミーティングの後に行う内部研修で取り上げたり、法人内研修を受講する機会を設け、身体拘束となる具体的な行為を正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修も毎年行っており、日々気を使って介護を行なっております。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族様のご協力もあり、成年後見制度を使う事がないが、そういう制度もあるという事は、研修でも行い知っている程度。	法人全体の研修会で、権利擁護の制度を学ぶ機会を設け、自己判断が困難になった利用者には、その方が不利益を被らないための支援体制の確立を目指している。職員は、制度の重要性を理解し、資料やパンフレットを用意して、必要時には説明を行なっている。現在、制度を活用している利用者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初回契約時は全ての重要な事項、契約書内容を読んでお伝えしております。改定の際にもお手紙にてお伝えし、質問があれば、お答えしております		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	直接言ってもらえる事が多く、その都度やり方やマニュアルを変更しております。	日々、利用者と過ごす中で、意見や要望を聴き取っている。家族の面会時にコミュニケーションをとる中で、意見や要望を聴き取り、ホーム運営に反映させていく。また、毎月家族に個別の通信を発送し、利用者の暮らしぶりを伝えている。面会の少ない家族には、電話で利用者の近況を報告し、希望を聴き取っている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年の人事考課面談や今年から匿名によるスタッフアンケートを始め、反映出来るように努めている。	カンファレンスや研修会も兼ねた職員会議を、曜日や時間帯等、職員が参加しやすいタイミングを探しながら月1回16時から開催している。会議では、職員の意見や提案が活発に出され、出来ることからホーム運営や業務改善に反映させている。今年度より、匿名のスタッフアンケートの取り組を始め、忌憚ない意見を出してもらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課にて、上司と直接給与や、職場環境の話を行い、改善に努めています。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢や性別など選べる余裕はなく、スタッフの平均年齢も高齢化してきている。スタッフ高齢化に伴い、マニュアルも変えてきている。	職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、人柄や意欲的な人材を優先している。法人全体で、産休、育休制度を設け、女性が安心して働く支援体制を整えている。4月から、ミーティング参加に対して手当がつくようになるなど、少しずつ待遇改善に取り組み、働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者様の人権に関する研修を毎年行い、普段よりスタッフには重々言い聞かせております。	利用者の人権を守る介護について職員間で話し合い、法人研修で、人権教育、啓発活動に取り組み、利用者一人ひとりを尊重する介護サービスに取り組んでいる。また、ホームの目標の中に、「利用者一人ひとりの気持ちを尊重する」と明示し、職員は常に理念と目標を意識して、実践に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月、全体研修か部署研修を行い。また外部研修費も年三回まで認めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に一回の運営推進会議に近くのグループホームをお誘いし、半年に一度3社合同にて運営推進会議を行わせて貰っております。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々、利用者様とのコミュニケーションにて要望を聞き出し、出来る限り対応させて頂いております。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初めは特に要望や、不安なことを聞き出そうとしており、慣れて来られるとご家族様から言って頂き助かっております。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	毎月のミーティングでも本人様の要望について話し合ったり、シフト調整を行い、出来る限り対応できる様に努めています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや、食器拭きなど出来る事はお手伝い頂いております。月一回の公園掃除にも積極的にご参加頂いております。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様により温度はありますが、出来る限り、無理なくご本人様の要望に寄り添われております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の来郷も多くあり、一緒にお出掛けや、こちらから出掛けたりさせて頂いております。	利用者の希望を聴きながら馴染みの場所に出かけたり、家族と一緒に外出や外泊を楽しむ等、利用者が長年培ってきた人間関係や地域社会との関わりが途切れないように支援している。また、家族だけでなく、利用者の友人や知人の面会も多く、居室でゆっくり過ごしてもらい、また来てもらえるよう声掛けを行っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席替えに苦労はしておりますが、利用者様同士の相性にて席を寄せたり・離したりさせて頂いております。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在までサービス終了内容が死亡の為しかない為、その後の関係はありませんが、葬儀の相談など、お答えさせて頂いた事はあります。		

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ありがたい事にこちらから要望を聞かなくても次々に要望は出ておられております。また要望提示が困難な方には、スタッフ全員でミーティング時に話し合いを行っております。	「買い物に行きたい」「ドライブに行きたい」「〇〇を食べたい」等、利用者からの要望はよく出ている。職員はこれらの情報を共有し、実現できるよう取り組んでいる。意思を伝えることが難しくなった利用者には、家族に相談したり、職員間で話し合い、表情や仕草から思いを汲み取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前ケアマネからの情報提供や、ご本人様・ご家族様からお話を伺いし、アセスメントを作成しております。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に入居者様全員の動きを把握し(センサーも使用)、転倒がないか、困った事はないか、声掛けや見守りをして1日を過ごして頂き、必要以上の支援がない様に心がけております		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の意見や、ご家族様の意見を介護計画書に盛り込ませて頂いて、ご納得頂きご捺印を頂いております。	家族の面会時に意見や要望を聴き取り、担当者会議の中で職員間で検討し、利用者一人ひとりに合わせた介護計画を6ヶ月毎に作成している。また、利用者の重度化や状態変化に合わせ、家族や主治医と話し合って方針を確認し、その都度見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌に記入したり、グループラインにて全スタッフへ即座に共有を行っております。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日のスタッフや利用者様と相談し、お一人のニーズに答える為、皆さんにご協力頂いております。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月の公園掃除参加や、地域行事への参加をさせて頂き、利用者様の地域との関りを大切に過ごして頂いております。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に基本協力医療機関の病院をご紹介をさせて頂いておりますが、もしかかりつけ医のご指定があれば対応させて頂きたくと思っております。	入居時に、希望を聞いて主治医を決めている。現在は、全員ホームの協力医が主治医であり、管理者が定期受診の同行支援を行っている。緊急時や夜間帯の指示もあり、看取りに入ると往診に切り替えて、訪問看護師とも連携しながら安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の病院へすぐに相談させて頂いております。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず管理者又はスタッフが同行し、病院側へ情報を伝えさせて頂いております。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まずご入居時に重度化した場合の対応や、終末期についてアンケートや話し合いを行い、終末期が近くなられた際には再びご意見を確認し計画書を作成しております。	契約時に、重度化や終末期について、利用者、家族の希望を聞き取り、ホームで出来る支援について説明し承諾を得ている。利用者の重度化が進むと、家族と密に話し合い、主治医も交えて方針を確認し、関係者全員で共有し、希望があれば看取りも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	部署研修や全体研修にて緊急時対応の研修を定期的に行っておりますが、スタッフはなかなか実践では行えず、管理者へ連絡が来て対応しております。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震による避難訓練を地域の方と一緒に行っており、計画書を作成しております。	年2回、避難訓練を実施し、通報装置や消火器の使い方、避難経路、避難場所を確認している。町内の避難訓練と一緒に、震度6でホームが火災という想定で実施し、1次、2次の避難場所への誘導を地域の方の協力を得て行い、地域との協力関係を築いている。非常食、飲料水の備蓄もある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーと尊厳の研修を年一回実施し、現場でもスタッフ同士が言葉使い等を注意するように心がけております。	利用者のプライバシーを守る介護の在り方を職員間で話し合い、利用者のプライドや羞恥心に配慮した対応を心掛けている。また、利用者の個人記録の取り扱いや、職員の守秘義務について、管理者が常に職員に説明し、情報漏洩防止に取り組んでいる。利用者の写真の掲示、掲載についての承諾書も取っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	現在ご入居の利用者様は自らの意見を言える方が多く、希望を出来る限り対応させて頂いております。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りご入居者様の希望に添える様に日々お手伝いさせて頂いていると思っております。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ご利用者様はお洒落より寒くないか、暑くないか気温を優先しがちです。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	大根を削ってもらったり、団子を作って貰ったり、出来る事は手伝ってもらっております	調理上手な職員が、毎食冷蔵庫の中身を見て献立を決め、美味しい食事を提供している。簡単な下拵えや食器拭きは利用者も一緒にを行い、テーブルを囲んで利用者と職員が談笑しながら一緒に食べる楽しい食事の時間である。また、時には白玉団子を作っておやつを食べたり、外食にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量を毎日チェックし、水分が少ない利用者様には声掛けにて飲んでもらい。入らない場合は協力医療機関にて点滴などを行って貰っております。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼は軽めの口腔ケアにて対応、夕方はしっかり歯磨きをして頂いており、週1回訪問歯科にてしっかりと口腔ケアをして頂いております。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄意のないご入居者様には2~3時間毎に声掛けを行い、トイレへ行って貰っており、日中は出来る限り布パンツで過ごして頂いております。	職員は利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、利用者が重度化してもトイレで排泄を基本とし、タイミングを見ながら声掛けや誘導を行なっている。また、夜間帯も利用者の希望を聴きながらトイレ誘導を行い、利用者の羞恥心やプライドに配慮した、トイレでの排泄の支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便が2日無い利用者様には、冷たい牛乳を飲んで頂いたり、他の乳製品にて排便を促し、それでも排便がない場合は協力医療機関から頂いている下剤を使用しております。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様毎入浴日を決め、その日の利用者様のご意見にて入る順番を決め、どうしても入りたくない利用者様は別の日に対応させて頂いております。	毎日お風呂を沸かし入浴することも可能であるが、利用者の希望や体調に配慮し、1日3人ずつ、週に2、3回の入浴となっている。入浴拒否の利用者には、時間をずらし、声掛けに工夫して、無理強いしないで意向を尊重した入浴支援を行っている。また、無理な場合は清拭や足浴に変更し、利用者の清潔保持に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者さまの朝の状態や、日中の活動の様子を観察し、入眠剤の服用時間や量を協力医療機関と相談して決めさせて貰っております。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による居宅療養管理指導を利用せず、スタッフが薬情を読み、配薬を行っており、排便のコントロールや血圧コントロールを協力医療機関の先生より指示のあった通り行えております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	そろばんや歌、脳トレと個々の能力にあった活動をして頂いております。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に岀かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	緊急でない場合は日にちをずらしてもらったりしておりますが、買い物や銀行、郵便局のどへお連れしております。	天気の良い日は公園の散歩、スーパーへの買い物、ドライブ、同一法人のデイサービスに出かける等、外出には積極的に取り組んでいる。また、家族の協力を得て、外食や自宅への一時帰宅等、利用者の生きがいに繋がる外出の支援に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで混乱される利用者様にはご家族様より許可を得て立替にて対応させて頂いております。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご自由にご利用頂いております。お手紙や年賀状作成もお手伝いさせて頂いております。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	現在のご利用者様は寒がりな方が多く、いつも暖房や床暖房にて寒くない様にさせて頂いております。正月飾りや手作りお雛様・クリスマス飾り等をして季節感の表現をしております。	庭を臨むサンルームにはソファーを置いて、花の時期には利用者が庭を眺めて楽しんでいる。リビングは、床暖房で温かく、季節感のある物や交流のある保育園児の作品、利用者の笑顔の写真を飾り、台所から料理の音や匂いが漂い、アットホームな雰囲気の共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の場所や向きには苦労しております。狭い空間ですので、口論などになってしまった場合は、居室へ避難頂き対応させて頂いております。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の際はご家族様やご本人様よりご提案やご希望を頂戴しお部屋作りをしております。又ベットの移動や向き変更、本人様が安心できるようにお手伝いさせて頂いております。	入居前に、利用者や家族と話し合い、使っていた家具や仏壇、テレビ、大切な人形やぬいぐるみ、家族の写真等を持ち込んでもらい、利用者が安心して過ごすことが出来る環境を整えている。また、「お布団のほうがいい」と言われる利用者には床に布団を敷いて休んでもらう等、それぞれの希望を聞いて柔軟に対応している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センサーマットやベット柵に鈴を付けたり転倒に注意しつつ、見守りや声掛け、介助等個々の能力に合わせて介助させて頂いてます。無理に介助に入らず、時間をおいたりして、気持ち良く介助を受けられる様に心掛けております。		